

第189回国会 予算委員会 第3号（平成27年1月30日（金曜日））

○赤嶺委員 御指摘が当たらないということでしたが、余りにも乱暴ですよ、今の巨大な構造物をつくるのは。

きのうの地元紙、きょうの地元紙にも報道をされておりますが、防衛省はボーリング調査を始めました。そのボーリング調査による環境破壊が発生していたことが明らかになりました。

現場海域ではフロートが設置されておりますが、そのフロートを海底につなぎとめておくための重さ百六十キロのアンカーがサンゴを損傷する被害を出していました。昨年十月の台風十九号のときです。二百四十八個あったアンカーのうち、百二十個はどこにあるかもわかりません。

ところが、政府は、被害の状況も再発防止策も、何も明らかにしておりません。海上での作業は継続したままです。沖縄防衛局には環境監視等検討委員会が設置され、こういう事態が起きたときにこのような問題も話し合うことになっていますが、そこでどういう議論が行われているかも明らかにされておられません。

まずは、作業を中止して、被害状況や委員会での議論、再発防止策を明らかにするのが当然ではありませんか。

○中谷国務大臣

昨年、台風十九号が参りまして、沖縄県に大変な被害をもたらしたわけでございます。この地域におきましても、調査をした結果、ブイ、フロートのアンカー二百四十八個のうち百二十個の箇所の存在が確認できなくなっていました。また、同アンカーのものと思われる三十六本の痕跡が確認をされておりますが、やはり、こういった被災状況を踏まえまして、アンカーが流れないように、その重量をふやすという措置など、今後の台風の接近に備えて、こういった対応、また、事前にブイを上げるなどの措置を行ってまいりたいと思っております。

また、第三回の環境監視委員会でお諮りをしたところでございますが、この内容等につきましては、議事等をまとめている段階でございますので、しかるべき時期に公表はいたしますけれども、現時点においてお答えすることは差し控えさせていただきます。

○赤嶺委員

台風十九号の直後に、アンカーがサンゴを傷つけている写真を持って、私は市民団体と一緒に沖縄防衛局長に会いました。沖縄防衛局長は、これがアンカーによる傷であるかどうかはまだわからない、調査の上で、環境監視検討委員会の専門家の意見を聞いて公表するというのが、まだ公表されていないんですよ。

あなた方は、いや、あのときのアンカーよりも、より大きく重いアンカーを設置すれば今度は大丈夫だと言う。素人考えじゃないですか。こういう判断について、環境監視検討委員会の意見をちゃんと聞きましたか。専門家の意見を得てそういう判断をしたんですか。この間より重いのをつくればサンゴを傷つけないというのは、こんな素人判断でやるのはおかしいじゃないですか。

だから、今、重たい、大きなアンカーを海底におろしてボーリング調査をするのは中止して、専門家の意見を聞くべきだと言っているんです。どうですか。

○中谷国務大臣

台風の結果につきましては、本年の一月六日に開催をしました環境監視委員会で議論をいたしております。

現在、沖縄防衛局において討議内容の確認を行っている段階でございますので、その指摘に対して調査を行いまして、必要な作業が終わり次第、この調査結果もあわせて公表してまいりたいと思います。

○赤嶺委員

ですから、調査結果がまだ出ていないうちに、次は大きなトンブロックをアンカーにすれば大丈夫だというような考え方は安易であります。

何のために環境監視検討委員会を置いたか。そういう工事の際にも環境の保全をきちんとやっていくんだ、専門家の意見を聞きながらやっていくから大丈夫だとおっしゃっていたじゃないですか。何で今、そういう検討委員会の意見も聞かないで、ああいう大きな、トンブロックのようなアンカーをどんどん海底に投げ込んでいるんですか。

工事を中止すべきではありませんか、専門家の意見を聞くという手続をとるべきではありませんか、防衛大臣。